

埋文やまがた



2016年1月31日

第56号



大蔵村 うわ たけ の 上竹野遺跡

土偶出土状況

(遺跡の詳細は【発掘調査トピックス】を参照)



公益財団法人 山形県埋蔵文化財センター

YAMAGATA PREFECTURAL CENTER FOR ARCHAEOLOGICAL RESEARCH
〒999-3246 山形県上山市中山字壁屋敷 5608 番地 TEL 023-672-5301 (代) FAX 023-672-5586

ホームページ: <http://www.yamagatamaibun.or.jp>

メールアドレス: yac@yamagatamaibun.or.jp

平成27年度 文化財普及啓発事業

今年度、山形県埋蔵文化財センターでは、文化財普及啓発事業の一環として、「発掘調査説明会」、「出前授業」、「外部展示」、「職場体験」、「センター見学・遺跡見学」、「体験学習」、「埋蔵文化財センター参観デー-埋文まつり2015-」等を実施しました。このほか2月には「発掘調査速報会」の実施を予定しています。(平成27年12月現在)

発掘調査説明会

	市町村	遺 跡 名	遺跡種別	開催日
1	大蔵村	上竹野遺跡(第1回)	集落跡	8月8日
2	村山市	羽黒神社西遺跡	集落跡	10月10日
3	大蔵村	上竹野遺跡(第2回)	集落跡	10月31日
4	高畠町	押出遺跡 集落跡	集落跡	11月23日

出前授業

地区	実 施 校	対 象	期 日
庄内	1 鶴岡市立羽黒第一小学校	第5・6学年	4月30日
	2 鶴岡市立栄小学校	第5・6学年	5月1日
	3 鶴岡市立東栄小学校	第6学年	5月7日
	4 酒田市立新堀小学校	第6学年	5月12日
	5 鶴岡市立温海小学校	第6学年	5月14日
	6 鶴岡市立大山小学校	第6学年	5月15日
	7 酒田市立宮野浦小学校	第6学年	5月18日
最上	8 舟形町立舟形小学校	第6学年	5月28日
村山	9 村山市立大久保小学校	第6学年	4月16日
	10 山形市立第六小学校	第6学年	4月17日
	11 山形市立出羽小学校	第6学年	4月20日
	12 村山市立富本小学校	第6学年	4月22日
	13 上市市立西郷第一小学校	第6学年	4月23日
	14 河北町立溝延小学校	第6学年	4月24日
	15 寒河江市立南部小学校	第6学年	4月28日
	16 村山市立戸沢小学校	第6学年	5月8日
	17 山形市立西山形小学校	第6学年	5月11日
	18 天童市立長岡小学校	第6学年	5月19日
	19 東根市立東根中部小学校	第6学年	5月20日
	20 大石田町立大石田北小学校	第5・6学年	5月22日
	21 東根市立東根小学校	第6学年	5月25日
	22 上市市立宮川小学校	第6学年	5月26日
	23 山形市立第一小学校	第6学年	5月27日
	24 村山市立富並小学校	第5・6学年	5月29日
	25 上市市立宮川中学校	全学年	6月25日
置賜	26 南陽市立宮内小学校	第6学年	5月13日

職場体験

	団 体 名	期 日
1	山形市立蔵王第一中学校	5月19日～21日
2	上市市内中学校「キャリアスタートウィーク」	7月7日～9日
3	山形県立山形聾学校中学部	8月3日～4日

体験学習

	団 体 名	期 日
1	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館 「勾玉・弓矢・石器をつくろう!」	5月30日
2	上市市立南小学校第3学年PTA親子研修会	6月28日
3	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館 「勾玉・弓矢・石器をつくろう!」	8月8日
4	河北町教育委員会「べに花かほく体験隊」	8月9日
5	舟形町教育委員会 縄文体験講座	10月4日
6	鶴岡市自然学習交流館 ～昔の火起こしを探ろう!～	10月4日
7	山形市明治地区文化祭 ～縄文時代の考古学体験～	10月31日
8	上市市産業まつり出展 ～上市市出土遺物の展示・勾玉作り・弓矢体験～	10月31日 11月1日
9	鶴岡市教育委員会 足元には文化財展」～展示解説・体験講座～	11月15日

外部展示

山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館 特別テーマ展「災害と祈り」 ～下大曾根遺跡、藤治屋敷遺跡、行事免遺跡、他～ 会 期:6月6日～8月5日
最上広域交流センター「ゆめりあ」ストリートギャラリー 「最上のあけぼの」～真室川が育んだ縄文集落～ ～釜淵C遺跡～ 会 期:9月4日～10月2日
鶴岡市朝日中央コミュニティセンター「すまいる」 「足元には文化財展」 ～野新田遺跡、仲台遺跡、栗山遺跡～ 会 期:10月23日～11月15日
遊学館 1階ギャラリー (予定) 「やまがた縄文文化」 ～西海淵遺跡、押出遺跡、作野遺跡～ 会 期:2月19日～3月4日

センター見学・遺跡見学・施設利用

	団 体 名	期 日
1	上市市立南小学校(5年:センター見学、体験活動)	4月30日
2	四条畷市立歴史民俗資料館(センター見学)	5月26日
3	東北大学大学院考古学研究室(センター見学)	6月12日
4	うきたむ風土記の丘考古資料館(写真撮影研修)	6月16・19・24日
5	霞城学園高等学校生涯学習講座 (羽黒神社西遺跡見学)	6月30日
6	霞城学園高等学校生涯学習講座 (センター見学・整理作業体験)	7月28日
7	鷹畑山1号墳発掘調査会(出土遺物鑑定)	8月17日
8	東北学院大学文学部 (発掘調査実習@羽黒神社西遺跡)	8月19・20日
9	ふたかみ史遊会(センター見学)	9月4日
10	長井・西置賜地域シルバー人材センター (山形城三の丸跡・センター見学)	9月18日
11	南陽市シルバー人材センター (山形城三の丸跡・センター見学)	10月8日
12	山形県立米沢興譲館高等学校SSH (1年:センター見学、講義)	10月14日
13	大阪大学文学部考古学研究室(センター見学)	10月21日
14	上市市立南小学校(2年:センター見学、体験活動)	10月23日
15	大蔵村立大蔵小学校(6年:上竹野遺跡見学)	10月23日
16	仙台市富沢遺跡保存館(羽黒神社西遺跡見学)	10月29日
17	東北芸術工科大学歴史遺産学科 (発掘調査実習@押出遺跡)	11月2日～ 12月25日
18	上市市クアオルト健康講座(センター見学)	11月17日
19	南陽市教育委員会(写真撮影研修)	11月24・25日

センター主催研修・講座 等

	講 座 名	期 日
1	平成27年度 第1回・第2回 山形県市町村文化財担当者研修会	5月15日 6月12日
2	夏休み子どもミュージアム 「土器(ドキ)ッとタイムトラベラー」	7月21日～ 8月21日
3	ふるさと考古学講座(1) 「凹(くぼみ)石の秘密をさぐろう!」	8月2日
4	ふるさと考古学講座(2) 「歴史遺産ウォーキング」山形城ぶらり旅	9月27日
5	埋蔵文化財センター参観デー「埋文まつり2015」	10月18日
6	平成27年度発掘調査速報会(予定)	2月28日

平成27年度発掘調査説明会

今年度は5遺跡、6件の発掘調査となりましたが、そのうち3件で計4回の発掘調査説明会が実施されました。

各遺跡とも、たくさんのお見学者を迎え、調査員の解説と案内の下、調査終了間際の遺跡を見学して頂きました。

10月10日(土)



羽黒神社西遺跡

↑2カ年の調査の結果、尾根上に縄文時代中期と考えられる大小17基のフラスコ状土坑をはじめ、掘立柱建物跡、石囲い炉、盛土状遺構、おとしあな陥穴などが確認されました。とくに盛土状遺構がフラスコ状土坑掘削時の残土置き場であったと考えられる、数少ない事例になります。

11月23日(月)



押出(おんだし)遺跡

↑今回の第6次調査は、これまでの調査の中で最も南側に調査区が設定されました。調査区全体は厚さ5～20cmの遺物包含層に覆われており、この中から遺物が出土しています。調査区中央部付近からは、盛土遺構と思われる高まりが確認され、その周囲からは数多くの遺物が出土しています。このことから、第6次調査区以南にも生活区域が広がっていることがわかりました。

8月8日(土)



上竹野(うわたけ)の遺跡 第1回

↑当初は、弥生時代が中心の遺跡と考えていましたが、縄文時代後期・晩期の竪穴住居跡が確認され、より古い時期から集落が営まれていたことが明らかになりました。

10月31日(土)



上竹野遺跡 第2回

↑縄文時代後期後葉の竪穴住居跡、弥生時代前期と考えられる竪穴住居跡が確認されました。弥生時代の住居跡は最上地区では初めての確認となります。また、広範囲に確認された弥生時代の捨て場からは土器や石器とともに土偶などの祭祀具さいしも出土し、山形県内陸部の弥生時代の集落を検討する上で重要な調査事例となりました。

各遺跡についての詳細は、P6からの【発掘調査トピックス】を見てね!

また、説明会当日配布した資料は、センターホームページからダウンロードできます。



ふるさと考古学講座(2) 平成27年9月27日(日)

歴史遺産ウォーキング 『山形城ぶらり旅』



県立博物館前

博物館前に集合。簡単な打合せの後、いよいよ出発です。後ろで大型模型が見守っています。



山形城本丸の堀内

山形市では、山形城本丸の復元を進めており、そのための調査が、今も続けられています。



山形城二の丸の石垣

山形城の石垣の、石材形状や積み方についての解説を行いました。



山形城三の丸跡第16次

第16次の発掘現場で、調査主任の解説を聞きました。ここでは、井戸跡などが検出されました。



三の丸の土塁跡

錦町にある三の丸の土塁跡です。住宅地にあるので、気付かない人も多いようです。



最上義光歴史館

ボランティアガイドさんが、義光(よしあき)公の生涯について、熱心に解説して下さいました。



山形城三の丸跡第17次

第17次の発掘現場は、済生館病院のすぐ裏手。写真は古代の住居跡です。山形市中心部の地下にこんなものが埋まっているとは、驚きです。



最上義光騎馬像(霞城公園)



三の丸跡発掘体験

少しだけ発掘に挑戦。遺構検出という作業を体験していただきました。地面を平らに削って、遺構を探していきます。

従来は「バスで遺跡を見に行こう!」と題し、貸し切りバスを使用した遺跡めぐりを実施していましたが、今年はコンパクトに霞城公園とその周辺で、山形城および城下の変遷をたどってみるという企画にし、徒歩による遺跡めぐりとなりました。

当日は、早朝こそ雲が多めの涼しいスタートとなりましたが、だんだんと雲も薄れ、秋の日差しが気

持ちの良い1日となりました。参加者の皆さんは、普段何気なく見ている現代の風景に、山形城や関連施設の名残を発見したり、また繁華街の足元に眠る遺跡の存在に驚いたりしていました。

通常は入ることの出来ない本丸の堀内を歩くなどの貴重な体験もあり、「大人の遠足」を充分満喫していただけたのではないのでしょうか。

埋文センター参観デー 平成27年10月18日(日)

『埋文まつり2015』



今年は、舟形町から町のマスコットキャラ「めがみちゃん」が、はるばる駆けつけてくれました。「めぐみちゃん」じゃありません。「めがみちゃん」です。国宝土偶「縄文の女神」の生まれ変わりだそうです。さすが女神様、美人です。



センターのマスコット、ビーちゃんです。負けてません。



特別企画展示では、『女神の子どもたち』『福島の復興支援に伴う発掘調査』『モノはヒトを語るのか』という、3つのテーマを設定してみました。



ご家族揃って弓矢に挑戦。縄文人になりきって獲物を狩れば、ストレス解消にも一役…かな？



埋文まつりでは、一般的な滑石ではなく、再生琥珀を使った勾玉作りに挑戦していただいています。滑石に比べ小さくて堅いので、作業は大変ですが、できあがりはとても上品で、きれいです。



整理作業の体験コーナーでは、注記作業の他、接合・復元や拓本等、数種類の作業を簡易的に体験していただきました。



「れきし仮装写真館」では、定番の縄文服等に加え、忍者や袴(かみしも)などの衣装を新たに導入。より幅広いニーズにお応えできるようになりました。



去年は、売ってほしいという声もあった、スタンプラリーの景品『オリジナル粘土細工』ですが、今年もがんばって作りました。おかげさまで好評をいただきました。



石器を実際に作ってみて、その作製方法や使われ方などを研究しています。実験考古学という分野の研究手法を、見ていただきました。

うわ たけ の

上竹野遺跡

ー 県北の弥生時代のムラ ー

大蔵村

上竹野遺跡は、大蔵村^{しみず}清水字上竹野に位置し、最上川に合流する銅山川^{どうざん}左岸の段丘上に立地します。今回の調査は、一般国道458号道路改良工事（本合海BP工区）にかかるため実施されました。調査面積は3,650㎡になります。当遺跡は、昭和29年に行われた山形大学による調査などにより、縄文時代晩期終末から弥生時代の遺跡として知られていました。

主な遺構は、縄文時代後期後葉の竪穴住居跡が2棟、弥生時代の初め頃と考えられる竪穴住居跡が2棟、掘立柱建物跡1棟、捨て場、土坑などです。

縄文時代後期の竪穴住居跡は、調査区北端の段丘縁辺近くに位置します。ST1竪穴住居跡は直径約6mの円形で、中央に地床炉^{じしょうろ}を備えています。支柱穴は4本備えられ、壁際には壁柱穴と考えられる小柱穴が多数確認されました。北東側には同じ時期と思われる小型のST38住居跡やSB95掘立柱建物跡などが存在します。

弥生時代のST202竪穴住居跡は、直径約8mと大型で、覆土中に大量の土器や石器が廃棄されていました。床面には地床炉が確認されています。次年度に継続して調査を行う予定です。



弥生時代初め頃のST202住居跡です。住居の廃絶後に、土器などが大量に捨てられていました。

出土した遺物ですが、縄文土器・弥生土器・石器・石製品・土偶などの土製品があります。注目されるのは、SF60捨て場から出土した弥生時代初め頃と考えられる土偶です（表紙写真参照）。大きさは約15cmで、頭部は欠けていますが、その下はほぼ完全な形で残っていました。捨て場の下から水平に安置されたような状態で出土し、その上には大量の土器が廃棄されていました。

（菅原哲文）



縄文時代後期のST1竪穴住居跡です。中央のやや黒い部分が炉跡で周りに柱穴が認められます。写真左下の部分が出入口と思われます。



ST202住居跡から出土した土版です。表裏に沈線による十字状の文様が描かれ、2ヵ所に穴があります。祭りに関連する道具と思われます。

押出遺跡の第6次調査は、これまでの調査区より11mほど南の位置で行いました。第1～4次調査で見つかった盛土遺構や打ち込み柱・杭などが、今回の調査区でも確認されました。盛土遺構とは、他所から持ち込んだ土や砂・粘土などを積み上げてマウンド状に造成したものです。遺跡の立地する大谷地と呼ばれる湿地の南側にも盛土遺構が展開することが分かりました。

盛土遺構の周囲には当時使われた土器や石器が多数廃棄されていました。また、盛土遺構は2～3基が隣り合って構築されていますが、それらの間が当時の廃棄物や土によって埋まってしまい、最終的には一つの盛土として利用したようです。

盛土の内部・周囲には多数の柱、あるいは杭が打ち込まれています。これらの性格は、住居の壁や柱とする説と、盛土を安定させるための土留の杭とする説があります。深いものでは2mに達する場合もありますが、多くは80cm下方から始まる硬い粘土層を目指して打ち込んだようです。

出土した遺物には、縄文土器・石器・木製品などがありますが、特に注目されるのは、ヒサゴ形の彩漆土器です。ほぼ完全な形で残っていました。全面に赤漆を塗り、その上に黒漆で渦



盛土遺構の断面です。砂や粘土が積み上げられていました。

巻きなどの文様を描いています。また、上から見ると円形ではなく、隅丸方形となっています。この土器は関東地方の土器の器形・文様をもっており、遠隔地との交流があったことを示すものです。これまで押出遺跡で出土した彩漆土器にはなかった器形であり、大変貴重なものと言えるでしょう。

また、さらに1.5mほど深い層から縄文時代早期の土器・石器などが出土しました。

湿地のそばでどのような集落が営まれたのか、大きな謎ですが、調査で得られた記録・資料をもとに検討していくことになります。

(水戸部秀樹)



盛土遺構の周囲には、土器や石器がたくさん廃棄されていました。



ヒサゴ形彩漆土器です。赤色は退色が進みやすいため次第に鮮やかさが失われていきました。

前号 考古学クイズ の答え

①

押出遺跡は、ひがしおきたま たかはた東置賜郡高畠町にあります。県のホームページ内にある「**山形県遺跡地図**」で調べてみると、実は皆さんの家の近くにも、たくさんの遺跡があることがわかるでしょう。

羽黒神社西遺跡の第2次調査は、3～6区の調査となります。3・4区は、昨年の調査で遺物包含層の調査が終了したので、遺構の精査がおもな調査となりました。また昨年の調査で遺跡の範囲が南北に広がることが判明したことから、第2次調査では新たに南側に5区と北側に6区を設定し調査しました。

3・4区の境界、すなわち丘陵の尾根付近には、深さ約1～25mほどの大きささまざまなフラスコ状土坑が点在することが判明しました。昨年の調査でも、1区の尾根付近で4基のフラスコ状土坑が確認されていました。今回の調査では、13基確認されましたので、合計17基になります。

すべてのフラスコ状土坑は、人為的に埋められていました。その埋め土のなかには、多くの土器や石器や炭化物が含まれていました。昨年発見されていた黄褐色粘土を主とする2カ所の盛土遺構の周辺からは、たくさんの遺物が出土し、またその周囲に焼土遺構も確認されていました。そのため盛土遺構とは、フラスコ状土坑を掘ったときの残土置き場であり、土坑を埋める際には、残土置き場周辺の遺物や炭化物を巻き込むかたちで、残土を再び使ったと考えられます。こうした事例

は、日本でも数少ない事例になります。

フラスコ状土坑の中には、炭火が土坑内に投入された例や、完形の深鉢形土器と浅鉢形土器が逆さの状態出土した例、底面にすだれ状の圧痕が残された例が確認されました。一般的にフラスコ状土坑は「貯蔵穴」とされますが、本遺跡の事例はそれを示す証拠がないため、別の用途であったと思われます。

それから、3区と5区の境界付近では、縄文時代中期と考えられる1間×4間の掘立柱の建物跡1棟が発見されました。建物跡内部には、焼土遺構が認められました。

また、6区で中期と考えられる石囲い炉1基が確認されました。遺物は、大量の中期の土器や石器のほかに、3区で顔が表現されていない完形の土偶1点、4区のクロボク土層中に、多量の縄文早期の土器片、6区で少量の縄文晩期の土器片が発見されました。

このほかには、平安時代の完形の墨書土器・坏1点が出土した墓と考えられる土坑1基も確認されました。
(大場正善)



3区と5区の境界付近では、掘立柱建物跡が発見されました。このような建物跡は、同じ時期の遺跡である村山市西海淵遺跡でも確認されています。



フラスコ状土坑の堆積層から、人為的な埋め立てや、壁や天井の崩落の様子などが確認されました。

「埋文やまがた」の購読について

広報誌「埋文やまがた」購読ご希望の方は、当センターまで電話にてお問い合わせ下さい。なお、郵送料はご負担いただきます。

電話023(672)5301(代表)

編集後記

今年度の出前授業では、クルミ割り体験（縄文食体験を含む）の希望が多く、例年の約2倍のクルミを消費しました。食育推進の影響でしょうか？今年も来年の体験活動にそなえて、スタッフがたくさんのクルミを準備してくれました。